

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	文楽の世界と箏曲の調べを知る
事業主体 (連絡先)	文楽・伝統芸能振興長野委員会
事業区分	(3)教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,304,769 円 (うち支援金: 3,668,000 円)

事業内容

教育現場や福祉施設などにプロの文楽の技芸員や箏曲の演奏者を招いて鑑賞教室や体験・実演教室など開催し、子どもたちや市民の方々に伝統文化を身近に感じ、経験として知ってもらう活動を行った。また伝統芸能等に従事する技芸員や演奏者から厳しい修行に取り組む姿勢や自身が選んだ道を追求するプロフェッショナルな精神を学びとってもらうことで、生徒児童らに自身の将来を考えるきっかけを作り、夢を持って真摯に自分の選んだ道を歩む大切さを感じてもらえた。また3年間の集大成として、大賀ホールでの本格的な公演を行い、これまで文楽のワークショップなどで得た知識、興味を深めてもらった。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

過去2年間、小中学校や福祉施設などで文楽鑑賞教室や文楽教室を行うことで、文楽という伝統芸能を認知してもらえるようになった。今年度は7校での学校公演と子どもや福祉施設向けの大賀ホール公演など、計1100人以上の参加を得られた。

特に小規模での文楽教室は印象に残ることが昨年の開催から検証され、長期的な興味へとつながると考えられることから本年は5校で開催した。また少人数での開催により、キャリア教育への成果をあげることもできた。箏曲の実演教室では、簡単な曲を弾けるようにすることで、古典音楽への興味を促すことができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

去年、今年と2年間、少額の予算や少ない人数での実施の可能性と効果を探ってきた。文楽技芸員3～5名での予算や受講人数の規模などが把握できたので、来年度以降の継続の目処を立てることができた。3年間の活動を通じて、継続的な協賛企業や協力者を得られることもできたので、今後も引き続き小さな規模での活動を継続していきたい。



【目標・ねらい】

- ①教育現場や福祉施設などでプロの技芸員を招き伝統文化を直接感じ、経験として知ってもらう。
- ②長い修行に従事するプロの姿勢に触れ、子ども達のキャリア教育の一助となる。
- ③地域の限りある古楽器の有効活用を測る

※自己評価【 A 】

【理由】

子どもや地域の多くの方に文楽を知ってもらえた。また子ども達からプロの姿勢に触れ、キャリア教育に繋がる感想が得られた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある